

# 心の輪12R

『半分おとな 半分こども』という資料を通して、「礼の精神」について考えました！

礼儀とは行動や言葉で適当に伝えるのではなく、本当に心から思ったことを言葉や行動に表すものだと思います。気持ちがこもっていないと意味がないと思いました。

礼儀とは、相手が判断することで、「挨拶」や「感謝」の気持ちがあっても相手が礼儀がないと思ったら礼儀はないと思う。本当の「礼儀」とは、挨拶や感謝の気持ちが表見できても、気持ちがこもっていなかったり、伝わらなかったりしたら、本当の礼儀ではないと思った。

礼儀というのは、相手に聞こえないと意味がないけど、聞こえていたら礼儀正しいというわけではないと思いました。感謝の気持ちなどを持ちながらしないとそんなに意味がないものだなと思いました。

礼儀というものは、1つあれば成り立つものではなく、形と心が両立して言う挨拶が礼儀というものである。

礼儀とは、気持ちをこめて表現することを行動に移すこと。相手が見てどう思うか考えて行動することが礼儀につながっているのかなと思いました。

礼儀は、よく考えてみたら意外と難しい。礼儀とは心からの気持ちや感謝を相手に伝えることだと思った。

気持ち・言動・表情がすべてそろって初めて、礼儀になっているということが分かった。

礼儀とは相手の気持ちがよくなる行動や言葉を言うこと。また、自分の中では思っている行動しなかったら相手から見ると礼儀知らずに見える。しかし、言われたことをただするだけでもいけないので、自分で考え行動することが大切。

## 礼儀に込められた思い

挨拶は自分が行うだけではなく、相手から受けることがある。そのとき、どんな思いを伝えようとしているのだろうか。



●挨拶や、丁寧な言葉遣い、態度を受けて、気持ちが良いと思ったり、うれしかったりしたことを思い出してみよう。

## 礼儀へのためらい

挨拶するのも、応えるのも面倒。  
敬語を使うことが恥ずかしい。  
形だけのお辞儀をしてしまう。  
……そんなことはないだろうか。

文部科学省資料  
『私たちの道徳』P.49より引用

●礼儀の大切さがわかっているけど、実際に振る舞えなかったのはなぜだろう。振り返って、考えてみよう。